

1

中央区
ことうさい
幌西小学校の場合

地域住民と 児童が意見交流

幌西小の3年生は、社会科の授業で幌西地区について調べていました。一方、防犯について子どもの意見がほしいと考えていた幌西地区連合町内会は、まちづくりセンターを通じて学校に相談。その結果、地域住民50人と、3年生167人による意見交流会が実現しました。児童からの疑問に住民が答えるなど、活発な交流が行われました。



意見交流会を行った感想を聞かせてください。
田中さん（以下、田中）
初めは、どんなことを聞かれるのか、また、三年生の子どもたちに理解してもらえないのかと不安でした。ですが、やってみると、どの児童も真剣に鋭い質問をしてくるので、つい話し込んで、時間が足りないくらいでしたね。
大嶋先生（以下、大嶋）
子どもたちは、授業の中で出てきた地域に関する疑問を、この意見交流会で一気に解消することができたようです。「今度は街路樹のことについて地域の人に聞いてみたい」

学校の授業から芽生えた、 地域への確かな愛着。

インタビュー

地域の方



田中 光夫さん

幌西地区連合町内会会長。交流会では、児童に地域の特徴などを紹介した。

学校の先生



大嶋 悠基さん

幌西小学校3年3組の担任。今年4月の赴任以来、精力的に地域に出掛ける。



という声が出るなど、次の学習に早速つながってきていますね。
意見交流会をきっかけに変ったことはありませんか。
大嶋 「道端で交流会に来ていた人に会って、あいさつしました」という児童もいるなど、地域の方と顔見知りになったことで、児童は地域社会とのつながりを強く感じるようになったと思います。
田中 それに、町内会の行事などに参加してくれる子どもがすごく増えました。きずなが深まったことを実感して、うれしくなりましたね。
交流会に参加した町内会役

員は五十人。すごい数ですね。
田中 地域の行事に幌西小のグラウンドを使わせてもらうなど、もともとこの小学校は地域との結びつきが強いんです。それだけに、この子どもたちを大切にしたいという気持ちはみんなが持っていると思います。だからこそ、五十人の役員が、一人も欠けずに参加してくれたのだと思います。これからも、学校とのきずなを深めていきたいですね。
大嶋 地域の方と同じ時間を共有することで、その方を持つこの地域への愛着を児童にも感じてほしい。そして、いつか子どもたちが大人になって、地域に帰ってきたときに、その精神を生かしてほしい。そうした交流の核に、学校がなればと思います。

3年3組 岡田 ももさん

交流会では、地域の方が幌西の自然について優しく教えてくれました。お礼の手紙を送ったら、返事をもらえてうれしかったです。

→授業で使った市作製の副教材「みんながまちづくり」を手に

